

第14回 塚田地区市政懇談会議事録

日 時 平成20年1月26日(土) 午前10時～12時
開催場所 塚田公民館 講堂

<質問事項>

- ・旭硝子工場等の跡地再開発について
- ・東武野田線の新船橋駅と塚田駅間の高架化要望について
- ・長津川水系の洪水対策について
- ・道路問題について
- ・文化活動支援政策について
- ・ペットボトルのステーション回収について
- ・ペットボトルのキャップ回収について
- ・学童保育所を増やしていく方策について
- ・道路幅拡張等の整備について
- ・自治会会館の設置について
- ・自治会会館の設置について
- ・東武野田線「塚田駅」「馬込沢駅」間への新駅（運動公園駅）設置について
- ・船橋市の福祉の基本的概念の説明について
- ・交通信号機の設置について
- ・塚田小学校通学路一部歩道拡幅のお願いについて
- ・下水道整備について
- ・旭硝子の跡地に避難場所として、緑地帯、公園の設置について

- ・旭硝子工場等の跡地再開発について

【質 問】

新船橋駅周辺地域の山手準工業地域が、今、商業地域への転換が進められております。その地域の変換につきまして、船橋市の都市計画また道路環境整備計画についてお伺いしたい。

はじめに当地域の現況について、新船橋駅前の東武スポーツプラザが白石工業(株)敷地に移転、同白石工業の敷地にコジマ電気、東武ストアが開店。

また、マックスバリューの店舗がイオン(株)のショッピングセンターに、日本建鐵(株)の敷地内にはシャネル(株)の流通センターが既に新設をされて稼動いたしております。また、旭テクノガラス(株)が平成20年の秋か平成21年に操業撤退と聞いております。そして、旭硝子の工場の跡地の土壤改良の工事も既に完了したのではないかなと思っております。

そこで、旭硝子(株)の跡地を含めた当地域の都市計画・道路環境整備計画を含めたデザインをUR都市機構に委託をいたしているというふうに聞いておりますけど、現況についてご説明をお願いしたいと思います。

2番目には、旭硝子(株)工場跡地についての計画をお伺いしたい。それから提言として、旭硝子(株)の跡地の再開発として、総合大学と公害のない企業の誘致ができればということがございます。2つの質問と1つの提言についてお願いします。

【回 答】

独立行政法人都市再生機構（UR）に委託している内容についてお答えします。

山手工業地域一帯は、工場の撤退などに伴い、商業施設やスポーツ施設などの土地利用の転換が進んでおります。

そこで都市計画部としては、全国的に豊富な事例とノウハウを持っている独立行政法人都市再生機構（UR）に今年度、業務を委託し将来の山手工業地域全体の土地利用のあり方の基礎的検討を行っているところでございます。

内容は、旭ガラス跡地を含む山手工業地域全体の現在の状況を踏まえ、工場の操業者の意向調査に基づいた適正な将来の土地利用の誘導策、ある

いは交通量調査、これらを踏まえ道路の適正な都市基盤施設の配置や基礎的な検討を行っているところでございます。

また、旭ガラスの跡地については、業務委託の内容ではございません。

【回 答】

旭硝子の工場跡地の利用については、地権者側から市に対して具体的なお話等はまだございませんが、旭硝子の跡地を含めた山手地区の土地利用について市内の関係部署が連携をし、この地区の適切な土地利用のあり方について調査研究をしているところでございます。いずれしても、旭硝子側から具体的な計画が示されるものと思いますが、その際にはこの地区の適切な土地利用が図れるよう道路等公共施設の基盤整備や皆様の生活環境に影響が及ばぬように会社側と協議をしてみたいと思います。

- ・ 東武野田線の新船橋駅と塚田駅間の高架化要望について

【質 問】

東武野田線の新船橋駅と塚田駅間の西側に、大型量販店の新規進出やスポーツクラブの出店などが相次いでおりまして、自動車交通量の大幅な増大が見込まれます。沿線の道路は片側1車線の狭い道路で、加えて踏切が散在をしております。一方、東側は大型マンションの新規建設が多く、非常に人口の流入が続いている。このために踏切を横断する車の量も大幅に増え、渋滞することが度々ございます。

このため、現在は東武野田線の高架が新船橋駅からゴルフの練習場あたりまでですが、これを今後、塚田駅まで延長を要望したいと思います。

【回 答】

鉄道の高架化事業、いわゆる連続立体交差化でございますけれども、当然のことながら踏切遮断による交差道路の渋滞解消や踏切事故の解消、あるいは鉄道によって分断されている市街地の一体化、こういったものを目標に事業を行うものでございます。この事業につきましては、多大な事業費がかかり国の補助を受け実施しております。

国の補助事業を受けるためには、一定の条件がございます。鉄道と幹線道路が2箇所以上で交差し、且つ鉄道と道路を同時に3箇所以上、立体交差しなければならない、さらに、幹線道路と交差する箇所にピーク時に1時間あたり40分も遮断する時間や1時間あたり5万台の交通量があるといったこのような状況です。それから幹線道路以外の道路については、1時間あたりに5万台の人や自転車の通過交通、歩行者は1時間当たり2万人の通過交通などの解消理由がないと国庫補助もいただけません。さらに国の指導として、関連する街路事業、土地区画整理や市街地開発事業、あるいは再開発事業、の実施や事業計画が固まっているなど、高架要望については、新船橋駅と塚田駅間のこれらの条件を満たすことは非常に難しく、実施は困難と考えております。

・長津川水系の洪水対策について

【質 問】

上山町、前貝塚町、旭町に降った雨は、最終的にイトーピア排水機場そばの合流点に終結すると聞いております、(市からは、50mmまでは大丈夫と聞いている。)昨今は温暖化の影響で集中豪雨が全国至る所で散見されるが、50mm以下の集中豪雨でも心配は無いのか、また、50mm以上降った場合はどうなるのか、ということについてご見解をお伺いしたいと思います。

シュミレーションの結果などがあれば、情報開示をしていただきたいと思います。

【回 答】

長津川は、二級河川海老川水系の右支川であり、上山町、前貝塚町、旭町などの雨水排水が流入する流域面積250ヘクタールの準用河川長津川であり、下流の二級河川長津川は、県と市により時間降雨強度50mm対応で整備してございます。

更に、前貝塚イトーピア自治会内を流下する準用河川長津川は、貝塚川合流点より上流の千葉県立船橋西高等学校テニスコート付近までの、約7

70 mについても、時間降雨強度50 mmに対応できる河川整備を、平成12年度末に完了し供用しておるところでございます。

また、時間当り50 mm以上の降雨につきましては、流末河川の二級河川長津川が河道と長津川調整池とで時間降雨強度量50 mmの整備となっておりますので、それ以上の降雨の際には、河川からの溢水の恐れが生じることが想定されます。

このようなことから市では、洪水時の溢水等をコンピュータにより氾濫シミュレーションを実施し、浸水状況と避難方法等の情報を防災マップ（洪水ハザードマップ）とも言っておりますけれども、それらを作成し、既に新聞折り込み等で皆様の家庭に配布しておるところでございます。日頃から防災に対するご理解を頂き災害時には、これらの情報提供したものを活用お願いしたいと思います。

防災マップ（洪水ハザードマップ）の配布は、昨年8月15日の新聞折り込みで配布しておりますが手元にない方は、船橋市防災課もしくは各公民館にご用意してございます。

・ 道路問題について

【質 問】

道路の問題について、全体的な考え方をお伺いしたい。最近、当地区でのマンションや住宅の建設、大型商業施設の建設といったことに伴って、生活道路・幹線道路等市民の生活道路が渋滞、あるいは危険な箇所が増えている。全国的に都市集中化の中、船橋市も人口増加の都市に入っているかと思いますが、そうすると道路は昔のままでマンションとか住宅が建設されれば、ますます渋滞とか危険な箇所が増える事は目に見えていると思います。

一般市民としては、市の将来ビジョン等、都市計画の中での道路というものはどのような取り扱いになっているのか。

次に開発申請等が出された場合、法律的に抵触しなければ市は許可をしていかざるをえないんだ、というようなお立場なのか。あるいはその計画や状況を踏まえて、行政指導とか規制をされていくのか、そ

ういった扱いについてお伺いしたい。

【回 答】

将来ビジョンにたった都市計画の中での道路問題について、現在、市内全域におきましては交通渋滞の緩和に向け、幹線道路をはじめ各道路の役割・機能分担を考慮したなかで各道路が機能的に繋がる道路ネットワークの構築を図るべく都市計画道路がございます。この道路整備はご承知のとおり用地買収等を含め沿道の方々の協力が必要であり、協議や交渉に大変時間がかかっているのが現状でございます。現在、市内52路線、延長128.18kmの計画で約49km、比率にしますと39%の整備状況となっています。

次に都市計画道路以外の主要な交差点の改良や補助幹線の既存道路の拡幅整備については、藤原3丁目交差点の暫定改良とか船橋西高校から藤原3丁目の交差点に至ります、市道00-047号線の拡幅整備等実施してきたところでございます。また、千葉県が市道34-22号線の行田団地の先、木下街道に向かうところを現在、事業中でございます。このように船橋市としては都市計画道路、一般道路を計画的に施行しているのが実態でございます。

次に旭硝子を含め大規模工場移転の開発について法律に抵触のお話があったのですが、船橋市はできる限り意見を言い、皆さんの利用する道路、特に歩道等をできるだけ安全のために造っていただくような指導をしております。また、大規模開発になれば非常に周りに影響がございます。現在、お話の旭硝子・旭テクノ・イオンが計画中で、この中でも歩道を確保するよう指導していきます。

・文化活動支援政策について

【質 問】

文化活動に対する市の支援政策について、船橋市は60万人に近い全国でも大都市に入ると思いますが、市民の音楽レベルが非常に高い。文化的な活動、いわゆる音楽とか絵画、書道、陶芸と文化的な活動をしている方

は、相当いるんじゃないか、そういった活動に際して練習する場所とか展示、発表あるいはコンサート、美術展といった鑑賞する施設が非常に少ないと感じております。特に、数少ない施設を確保するために市民は、非常に苦勞しております。隣の習志野市や市川市に比べても質・量ともに船橋は劣っているという印象は拭えないんです。市民が心豊かに生き生きと元気で生活、生きていくためにはこういった文化的な活動というのは欠かせないものだと思います。行政当局の支援・政策についてのお考えをお伺いしたい。

次に、美術館の建設計画内容がどういうものなのか、という事と一般市民がどのように利用できるのか、といった事も併せてお伺いしたい。

【回 答】

文化活動支援策について、船橋市は市立船橋高校を初めとする、小中学校のスポーツ活動というのは大変盛んで、それなりの成績を修めていますことから、全国的には船橋のイメージはスポーツ都市のイメージが定着しつつあるのは確かでございます。船橋市には市民の活動の場として、本町地区にある市民文化ホールや市民文化創造館「きらら」及び市民ギャラリー、茶華道センターなどがございます。それらの施設には優れた芸術文化に触れる機会として、鑑賞とか発表の場として市民参加型の事業とか数多く実施され、市民の文化活動の拠点ともなっております。また、薬円台地区にある郷土資料館や海神地区の飛ノ台史跡公園博物館では、郷土の歴史学習や文化財等の展示公開や体験学習など、博物館事業が積極的に展開されており、そこにおきましても博物館以外の芸術家にも開放して、その古墳とアートのコラボレーションを発表したり、北部地区の子ども美術館でも、児童生徒の絵画発表や体験学習、企画展示を通して特色ある事業を実施している。

ご指摘の文化施設につきましては、船橋市民ギャラリーが1,000㎡を超える展示壁面がございまして、市川市は展示壁面が700㎡、習志野市は35㎡で展示スペースはトップクラスの施設を有しております。また、駅前の利便性を生かした市民文化創造館「きららホール」の活動などは多くの市民の皆様にご好評を博しているところでもありまして、近隣市でも大変羨ましがられております。最近では船橋市民以外の利用の問合せありま

すが、船橋市民以外でも利用可のご案内している。

また、船橋が一番力を入れている、県下有数の施設規模を誇ります公民館は、市内で25館を数え地域における生涯学習の推進と文化活動の実践の場となっており、多くの市民の皆様にご利用されているところで、塚田公民館に置きましても、絵画サークルとか様々な芸術文化活動に利用されており、年に何回か文化祭をはじめとする展示の場所ともなっております。

また、音楽活動でもスポーツと一緒にバランスのとれた船橋市として、全国的に大変有名な音楽都市というイメージも定着しつつあります。その音楽活動で金賞を獲ったり、最優秀賞をとっているわけですが、そのお子さんがインタビューの時に「どうして音楽をはじめましたか」と質問された際に「おじいちゃんが公民館で大正琴をやっていて、家で練習しているのを聞いて小学校に入った時に、楽器でとにかく音が出るものは何でもいからやってみたいと思いました」と、こういった地道な公民館での活動が点の活動ではなくて、家庭から学校へ、そして地域へと線の繋がりが文化活動になっていると、船橋市として理解をしているところでございます。

次に、市の美術館建設のご質問について、現在、本町地区に(仮称)清川記念館として美術館建設の計画を進めている。施設規模は、1,000㎡程度で、地上2階地下1階の施設として、今年度は基本設計・実施設計をしている。開館後は椿貞雄など著名な美術作品を収集した、清川コレクションの鑑賞をはじめとして、船橋ゆかりの芸術家の企画展や市民の美術活動の支援を行い、市民の皆様のご要望に応えられるような美術館運営を展開してまいりたいというふうに考えております。

それから2月10日、1000人の音楽祭が船橋アリーナで午後1時から開演します。無料でございますので是非一度ご覧いただければと思います。

・ペットボトルのステーション回収について

【質 問】

ペットボトルのステーション回収について、塚田地区ではごみ減量の1つとして、ペットボトルステーション回収のための分別を実施してい

ます。現在、塚田地区連合自治会加入の町会、自治会で約9,200世帯が実施しています。平成19年10月総回収量は68.8トン、船橋市の拠点回収の年間回収量の約40%をリサイクル、試算すると約200万円のゴミ処理費用の節約に寄与したことになります。以上の実績を船橋市はどのように評価されているのかお伺いいたします。

また、船橋市は家庭から出る1人1日当たりのゴミ排出量を、12%約150g減量しようと市民に呼びかけています。ゴミの有料化も1つの方法です。

だれでも取り組める減量のシステムづくりは、船橋市が取り組むべきサービスだと思えます。ゴミの減量の施策の1つとして、ペットボトルステーション回収を今後どの様にお考えなのか、平成19年4月より坪井地区で実施されている試行状況・結果等も含めて、ご見解をお伺いいたします。

・ペットボトルのキャップ回収について

【質 問】

ペットボトルのキャップ回収について、平成19年の「塚田環境フェア」で、ペットボトルのキャップ回収を呼びかけた所、200名の方から5,700個が集まり、売却しワクチン購入資金として日本赤十字社の「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付しました。

キャップ回収の反響は大きく、地域外の方からも問い合わせの電話があるほどです。学校教育の一貫としての学校での取り組み、また、市民に対する環境・国際交流・平和の意識高いまちづくりの取り組みとして、ペットボトルのキャップ回収は大きな効果があると思われませんが、市としてどうお考えかお伺いいたします。

【回 答】

ペットボトルにつきましては、公共施設や酒販店などの拠点で回収を行いまして、資源化を行っており、ごみの減量やさらなる資源化を目的としてペットボトルのステーション収集について検討を行っているところでございます。

また、キャップやラベルにつきましては、今後、容器包装リサイクル法における、その他のプラスチック製容器包装の枠組みとして、分別を拡大する計画をしております。

坪井地区の美し学園自治会のステーション回収を昨年の6月に試行収集を実施いたしました。現在も継続中で排出状況や協力率など調査しているところでございます。

今後はこの試行収集の調査結果を踏まえましてペットボトルのステーション収集化に向け、収集方法の検討や費用の算定をしていく予定でございます。また、塚田地区に対する評価については、環境行政に対する意識の高さから、ペットボトルの回収の取り組みが非常に進んでおります。これは自治会、回収業者、買取業者の3者の協力による地域の自主的な有価物回収システムとして評価しております。

また、ごみの減量・資源化の取り組みの例として意義のあるものと考えるところでございます。

次にキャップの回収リサイクルにつきまして、現在、ペットボトルを排出する際は、キャップ・ラベル等をはがしていただくよう市民の皆さんにご協力をお願いしているが、キャップ付きで排出されたものについては、市のリサイクルセンターにてキャップを回収し、エコタウン事業に認定された再生事業者に引き渡すことによりコンクリート用の型枠材として再資源化されております。

塚田地区におけるキャップ回収は、ごみの減量や資源化だけではなく、市民の皆さんの環境に対する意識の向上や学校教育としての環境学習といった観点からも意義深い取り組みとして受けとめております。

今後もこのような取り組みを参考にしつつ、ごみの減量やリサイクルの推進に向けたパートナーシップを築いていくことが重要であるという認識に立ち、循環型社会形成に向け、市民・事業者・関係団体・行政と連携・協力し、教育委員会をはじめ、市の関連部署とも横断的に何が可能であるか何をすべきかの共通認識をもちまして、計画的かつ効果的な展開となるような方策の検討に努めてまいります。

- ・学童保育所を増やしていく方策について

【質 問】

行田団地の商店街に行田ジャングルクラブという民間の学童保育所があります。昨年4月にできたものです。船橋市では小学校55小学校区に放課後ルームという市直営の学童保育所があります。しかし、行田東小学校・行田西小学校など行田公園の周りでは、昨年に定員がいっぱいで待機児童が40名近く出ています。そこで保護者と住民が力を合わせて急遽立ち上げたものが今行田団地の商店街の学童保育所です。現在の在籍児童数が27名です。船橋市には定員を超えている学童保育所が20箇所あり増設を進めていますが、マンションの新設や共働き家庭の増加で待機児童は年々増える一方です。それに伴って民間の学童保育所が現在市内に7箇所できております。また、国の施策が平成22年には70名を超える学童保育所は国の補助金の対象から外されることになっています。市内に14箇所あります。学童保育所を増やすことが急務になっているわけです。市民との協働を掲げ、市役所に市民協働課という部署を作っている藤代市政として、市が公設公営の学童保育所を自前でつくり運営するだけでなく、その補完として地域の力を活用し学童保育所を増やしていくことも有効な方策と考えます。また、児童福祉法でも学童保育所について市町村は、地域の実情に応じた事業を行うとともに、当該市町村以外の事業を行うものとの連携を図るなどにより利用の促進に努めなければならない、と規定しています。以上を踏まえ質問をさせていただきます。

1点目は放課後ルームの待機児童の現状と来年度の待機児童数はどの程度と予測されているのか。

2点目は待機児童の増加や国の施策変更に伴って学童保育所数を大幅に増やすことは急務となっているが、どのような方法をお考えでしょうか。

3点目です。市直営の学童保育以外に地域住民や民間団体の力を活かして学童保育所を増やしたり、運営していくお考えはありますか。

【回 答】

学童保育の待機児童の現状及び来年度の待機児童数の予測について、待機児童数は4月の年度当初に入所を希望される方が多く、待機児童が発生

し、その数は夏休みを境に減少傾向になります。

理由は「塾へ通う」、「クラブ活動への参加」、「ひとりで留守番ができるようになった」などで、退所児童が増えることや、船橋市が待機児童対策として施設の増設を図っている。

今年度も3ルームの増設を終え、12月1日現在、待機児童数が2名となっております。

また、現在、来年度入所希望者の申請受付（11/15～1/31）を行っているが、来年度の待機児童は教育委員会で作成する児童推計表や、保育園の入所児童数、これは年長時です、などをもとに放課後ルームの入所児童数を予測している。また、待機児童の予測については難しいものがございますが、年度当初約70名の待機児童が出ましたことから、それらと同程度と予測をしております。

次に待機児童の増加に伴って国の施策変更に伴う施設を増やす方法ということでございますが、放課後ルームの増設計画は各放課後ルームの定員設定や待機児童数の状況、また将来に渡る長期間の需要見込みなどの数値をもとに毎年度見直しを行い、増設が必要となった施設については、学校の教室や校庭の状況などを順次条件が整ったところから整備を図っております。特に、大規模ルームの解消など、国の施策を踏まえた中で、今後も計画的に施設整備を図ってまいります。

次に、公設公営の学童保育以外での、民間団体等の力の活用について本市では、平成12年度に放課後ルーム事業を公設公営とし、平成14年度に全小学校に放課後ルームの開設を完了しました。平成15年度からは、住宅、マンション開発等の影響もあり、ルームの児童が急激に増えたため、毎年度、増設を進めてきたところでございます。今年度も3ルームについて増設を図っております。

従いまして今後も引き続き、公設公営で放課後児童健全育成事業を実施してまいりたいと考えております。

- ・道路幅拡張等の整備について

【質 問】

塚田駅から行田公園に抜ける道というのは、片側1車線の整備された道路とはなっておらず、住宅街の道が車道化しているのが、現状でございます。特にリビオ船橋からゼファー船橋塚田までは車がすれ違うことができないほど道が狭く、利用者の任意で片側交互通行を行っているような現状となっております。さらにこの道路は歩道が明確にとられていない状態なので、学童の通学路としても非常に危険な状態となっております。それによりまして道路幅の拡張または歩道の確保、または波状道路等の何らかの改善措置を強く望みたいものでございます。

また、この道路に面している当マンションの出入り口も内外からの車両、自転車等の確認がとりにくく、接触事故寸前等の危険な事例が数多く寄せられております。

よって、出入り口等への路面のペインティングや反射ピース等の埋め込み等の処置を要望いたします。

【回 答】

東武野田線塚田駅から行田公園に至ります市道につきましては、当地区内の生活道路と位置づけしており、全線にわたっての拡幅計画はありません。拡幅した場合、更なる通過交通の増加や居住環境の悪化を招いてしまうことから、船橋市はマンション建設等開発行為における道路拡幅の指導及び市の用地買収による待避所の整備を行っております。

ご要望のありました学童等歩行者の安全を確保するためのカラー舗装等安全対策については、どのような対応がとれるか検討して参ります。

次にマンションの出入口の安全対策について、船橋市道等公道における補修や安全対策は行っておりますが、個人宅やマンションからの出入口につきましては、その所有者が行うことになっております。

- ・自治会館の設置について

【質 問】

旭ヶ原自治会では1970年代に旭ヶ原・旭平・旭ヶ丘、3自治会連合で地権者のご好意で土地を20年間お貸しいただけるとい

とで建設しました。20年経過し地権者の方が土地を開発するという
ことで返還請求をされ自治会館を撤去いたしました。

以降場所がないということで自治会活動が非常に低下し、昨今では
市のご援助を得て行っている敬老会とか、理事会の懇親を深めるため
の新年会とか、ほとんど開催できない状況になっております。

ぜひ、自治会館の設置をお願いします。

・自治会館の設置について

【質 問】

旭町本町会は670世帯の町会加入数がございます。当町会ではこれか
らの高齢者社会に向けた住民同士の助け合い、ふれあい、災害時防災用置
き場など、いろいろな会合のための会館が必要です。

何とか市の土地等の提供をお願いできないか、現在使用している旭町会
の農業会館は狭く、老朽化し建て替えが必要かと思っております。

市のご指導をいただきたいのですが、よろしく願いいたします。

【回 答】

同じ質問ということで一括して回答させていただきます。

各種の地域活動の拠点となっているのが、町会・自治会館ということで、
その重要性については、認識致しているところです。

会館の建設については、まず、町会・自治会において、土地や建設資金
を確保し、町会会館を建設していただき、その後に建設費の8割相当額を
補助金として、船橋市が助成する形で行っています。

要望の趣旨は、「市で建設してもらえないか。共同で使用するのでは何と
かなりませんか。」というお話ですが、基本的には町会で建設し、その後
船橋市が財政的な支援をさせていただく方法を今後もとってまいりたい
と、考えています。

また、用地の確保だとか金銭的な負担軽減を図るため、共同で建設する
例は市内にはあります。それも、選択肢の1つとして思っています。

・東武野田線「運動公園駅」について

【質 問】

道路の混雑緩和等を考えますとぜひ駅の設置をお願い申し上げます。塚田と馬込沢の間はけっこう時間がかかりますので、その間に1つお願いいたします。

【回 答】

東武野田線塚田駅から馬込沢駅間への新駅設置につきましては「船橋市総合計画」及び「船橋市都市計画マスタープラン」に調査・研究を行うものとして位置づけております。

新駅設置により交通利便性の向上、地域経済の活性化などの効果が期待されますが、同時に解決すべき課題も多くございます。

今現在、塚田駅と馬込沢駅の駅間は約2.4km程ありますが、一般的に新駅設置の場合、駅間が2km以下の場合には隣接駅からの乗降客の移動に留まり新たな乗降増につながらないということから、鉄道事業者側でその間に新駅を設置することは極めて困難と考えています。

従いまして駅を新設する場合は、地元の要望で開設する「請願駅」となり、財政的負担は地元にて全て求められます。

駅舎に加え駅前広場、接続道路などの新駅周辺の整備に多額の費用が必要となってまいります。

本市は今後、清掃工場の立替えや学校の改修など市民生活に不可欠な諸事業がございまして、多額の財政支出が見込まれます。前向きにということでございますが、現時点では新駅設置に係る経費を負担することは大変難しい状況です。

塚田駅から馬込沢駅間の運動公園周辺は、市街化調整区域でございます。農地が大半で周辺地域の課題や影響を考慮した土地利用とか地域の活性化を考慮した都市計画（まちづくり）の検討やバス路線への影響も検討する必要もあろうかと思っております。いずれにいたしましても運動公園駅の実現につきましては、中・長期的な視野の中で引き続き調査・研究をしてまいります。

・船橋市の福祉の基本的概念の説明について

【質 問】

高齢者福祉については、この国の今日の基盤をつくった高齢者です。医療が発達してみんな年寄りが長生きします。介護とか医療・福祉、一生懸命やってほしいなと思います。それと併せて生活弱者に対する福祉、いわゆる困った人を助けるのは当たり前のことですから大いに頑張ってもらいたいなと思います。

なぜ私が質問するのかというと、やっぱり福祉も聖域だということで湯水のように予算を撒いていたら納税者はいくら税金を払っても間に合わない。納税者は、入口はきちんとチェックされます、うっかり忘れてたら延滞料も利子料もとられるし大変なことなんです。出口のチェックもきちんとしてほしい。法令を遵守してほしいということです。

例えば生活保護を受ける場合、配偶者、親兄弟、親族に資産はないかとか、そのチェックをきちんとしてほしい。

【回 答】

いろいろご指摘いただきありがとうございます。サービス部といたしましても職員、一生懸命努力しているところでございます。いろいろ情報等いただきまして更に努力していきたいと思っております。

・交通信号機の設置について

【質 問】

塚田駅前のT字路に信号機を設置していただきたい、その周辺は10年ぐらいでマンションが10棟ぐらい建って、交通量が激しく夕方などは渋滞になっています。塚田小学校も生徒が増えてその箇所を通ります。学童の交通事故から守るという安全の面からも非常に重要な箇所ですので、ご検討をお願いいたします。

【回 答】

信号機設置の場所は塚田小学校の通学路で、朝夕を中心に車の往来が多いことは認識しております。

また、スクールガードの方が7時半頃からずっと立っていただいて、本当に有難く思っております。押しボタン信号について交通管理者の船橋警察署にお願いしてまいりました。船橋警察署では設置について、非常に困難だが100%駄目だという結論ではございませんでした。踏切直近ということ、で非常に難しいと伺っておりますが、設置に向け再度、警察と調整を図ってまいります。

- ・塚田小学校通学路一部歩道拡幅のお願いについて

【質 問】

塚田小学校通学路の一部拡幅の件、場所は接骨院さんからこの会館までの間の約20～30mのところ、ここは非常に歩道が狭くて64cmしかない、小学校の通学路で朝夕通学する時に歩道を通らないで車道を通っていくケースがほとんどで、非常に危険な場所になっております。

地主さんと交渉して1mあるいは2mぐらい買い取って、拡幅していただければ子ども達が安全に通学できるのではないのかなと思ひ、今回、提案させていただきました。

【回 答】

塚田駅前から塚田小学校に至る市道00-193号線の一部拡幅について、塚田公民館東側の農地(畑)を1mでもということですが、現状では道路の境界が未確定でございますので、道路の境界を確定し、用地の取得の可能性について検討すると共に、安全対策として樹木が張り出しておりますので、剪定も含めて地主にお願いしていこうと思ひます。

・下水道の整備について

【質 問】

行田2丁目花の道自治会の下水道の整備事業について、完遂するのに30万ぐらいかかるんじゃないかということでお話をいただいておりますが、市の下水道の整備事業、具体的な計画を教えてください。1番の関心事は浄化槽の話が出ておりますので教えて欲しいと思います。

【回 答】

行田2丁目地域は合流式で下水道整備を進めており、西浦の下水処理場で処理している区域でございます。塚田地区の整備状況は、下流域の西船、葛飾、海神、印内の整備はほぼ終え、最上流部である古作へ向けて整備を進めているところです。下水道の整備にいくらぐらいのお金が掛かるのかということについて、行田2丁目の花の道自治会周辺では平成20年度に測量や調査を含めた自主設計を行い、平成21年度に主要地方道船橋・松戸線への管渠敷設工事を予定しております。その後順次接続が可能となってまいります。当該地区の道路は私道路となるため、公共下水道を入れる場合、占用許可が必要となります。既設の排水管の流用は財産移管など協議調整が必要となりますので、工事に入る前に下水道建設第一課が詳細のご説明をいたします。また、どれくらいのお金がかかるのかというお話について、宅内の浄化槽から接続箇所までの排水整備は自費工事となります、大体27万円程度の負担になりますが船橋市では無利子で30万円まで貸付制度があります。

次に受益者負担金これは下水道整備に係る一部を負担していただくということで土地1㎡当たり300円の負担になります。

また、接続後下水道を使用した際に、当然使用料が発生してまいります、これは自宅で使用する月の水道料金と比例してまいります、水道を使う分だけ下水料金として付加されるということです。

先ほど申し上げましたように工事に入る前に再度、私どもが皆様のところまゐりましてご説明いたします。

- ・旭硝子の跡地に緑地帯（公園等）の設置について

【質 問】

長太郎団地第二町会です。旭硝子の跡地に避難場所も必要だと思います。塚田小学校まで行く間には瓦礫が落ちたり倒壊したり、非常にこれは難しい。旭硝子の跡地に緑地帯の公園を作ってもらえれば真っ直ぐ道路を行かれますので、検討を願いたい。

【回 答】

旭硝子の土地利用計画が出てきませんが、今いただいたご意見を今後協議してまいりたいと思っております。